静私幼だより

（表紙写真／春日こども園）

- 海外研修報告
- 特集「園外保育と安全管理（その6）」日向崇紹
- むらまつけーじのお絵かきのこと
- コミュニティ（保育の窓）
- もの想い（花園幼稚園・たかおかこども園）
- 教員養成機関との意見交換会
- 楽しくできるラクチン食育/末永美雪
- 健康随想/吉野友勝
- 年間ナイスショット

こどもが まんなか PROJECT
只今全国展開中

NO.188
2020③
Spring

令和元年度　海外研修報告

期間■令和元年8月30日～9月17日
場所■スウェーデン王国
スコーネ県ヘルシングボリ市

■視察目的
教育先進国として注目を浴びる北欧諸国のなかで、特にスウェーデンは、OECDなど国際機関によって高く評価されており、幼児教育・アウトドア教育が脚光を浴び、世界中から多くの教育関係者が学びに訪れている。日本でも注目されており、アウトドア教育や主権者教育、分け隔てないみんなの教育、起業家精神教育など先進的な取り組みが様々な媒体で紹介されている。本研修では、実際にその教育現場でどのようなことが行われているのか、またそこで働く教育者がどのように考え動いているのかを学ぶ。そして日本における教育との差異や一致を感じ、それをどう活かすかを考察する。

■研修生
学校法人 足立学園・認定子ども園
リーチェル幼稚園　足立武裕
学校法人 空華学園・幼保連携型認定こども園
なかざわこども園　細倉泰生

言語について

スウェーデンでは移民が増えており、言語に関する教育はその重要性が増している。ヘルシングボリ市はスウェーデン南部に位置していることもあり、近年移民の増加が著しい。市内のプレスクールでは、園児の90％以上がスウェーデン語を母国語としていない園がある。こうした問題に対処するため、ヘルシングボリ市では子供がスウェーデン語だけでなく母国語を学べる機会を提供している。「話せる言語が多いほど創造性が高まる」との研究結果があると教育センター（ペタゴギストセンター）でのプレゼンテーションがあり、こうした言語の教育が、社会の多様性と発展に寄与するものであると感じた。

食育について

ヘルシングボリ市の食育を統括している方に話を伺うことができた。ヘルシングボリ市での食育活動は、その活動を通して子供たちが社会とつながり、持続可能な社会に対する関心を持つことを目標としている。子供たちが日常的に有機野菜に触れる機会を設けており、園内で栽培した野菜を様々な形で加工したり、味覚だけでなく視覚や触覚、聴覚にも訴える活動を行ったりしていた。実際に行っている活動を体験したが、その中で最も印象に残った一例を紹介したい。人がおしゃれしているように野菜を飾り、まず子供たちが一人一つ石を持つ。見た目でどの野菜が好みか、各々が野菜の前に石を置いて投票する。次に小さく切った生の野菜を食べ、味でどの野菜がいいか石を動かす。このような活動である。調理される前の野菜に触れ、その触感やにおい、味を確かめるだけではなく、投票という民主主義の根幹にあるものを学ぶこともできるとても良い活動だった。このように、食育という分野でも子供が暮らす社会とのつながりが感じられた。

保育の質の確保

ヘルシングボリ市のプレスクールでは、保育の質の確保のために様々な方策を講じている。行政においては、教育センターの役割が非常に大きい。40名を超える職員がそれぞれの専門性をもって勤務しており、市の学校の職員に対して様々な研修を行っている。また、各プレスクールに対しての指導も行っており、月に一度の間隔で教育センターから保育の確認のために人員を派遣している。プレスクールにおいては、園長の役割が大きく、予算や人事、保育の計画に関する権限を持っている。園長は月に一度市や保護者に対する報告書を作成しており、その報告書はインターネット上のシステムで公開するため、園長の保育方針や運営状況を、保護者がいつでも見られるようになっている。こうした活動は、幼児教育が社会の基盤の一つであるとの共通認識に依るものであり、子供たちが入園する際に保護者との話し合いでいかにして園と保護者との間でこの共通認識を持つことが重要であると学ぶことができた。幼児教育の重要性に対する認識は、日本よりも高いように感じた。

各プレスクール訪問

スウェーデンの就学前学校は1歳から始まり5歳まで通う遊び中心のプレスクールと6歳児の小学校への接続を考慮した遊びと学習の相互作用に焦点をあてたプレスクールクラス（義務教育）がある。

クラス編成としては1・2歳児クラスと3～5歳児の縦割りクラスで活動している。先生の数も手厚く4～5対1の割合で配置されている。3～5歳児の活動は少人数のグループに分かれてプロジェクトとよばれる活動を行う。プロジェクトは持続可能な社会をつくるという大きなテーマのもと行われるため、自然や環境のものが題材となりやすい。そのプロジェクトを進めるうえで大切なことは子供たちとの対話や子供同士の対話、そして子供たちの様子をよく観察することである。また子供に積極的に発言させたり、自ら選択させたり、子供同士の対話で子供の意見や主体性を重視し民主主義教育を実践している。それには日々のドキュメンテーションと定期的に行う職員会議が重要であり、職員たちのチームワークとプランニングが重要で、それにどれだけ時間をかけたかによってプロジェクトの善し悪しも決まるのだという。また、「子供は環境に影響を与えることができる」というスウェーデンの教育理念のもとプロジェクトが実践されるので、プロジェクトの内容が子

供自身の生活や家族と密着していたり、園の隣の公園、自分の家の近くの場所や地域、はたまた行政などを巻き込んだりしながら行われ、子供たちの学びが実生活や実社会と繋がり、とても現実味があるものになっているのだと強く感じた。

アウトドアクラスとデジタルコンピテンス

視察したヘーガステンプレスクールのアウトドアクラスは3～5歳の縦割りクラス15名で先生は3名。一年中一日野外で保育活動を行う。雨でも野外で活動し、給食を運んで移動するため、天候やコンディションにより活動場所を変えてどこへでも出かけることができる。スウェーデンは自然享受権があり、地主に損害を与えない限り他人の土地に立ち入ることができるため、どの森にも行くことができる。アウトドアクラスの保育内容は、もちろん、虫や動物を探したり、野草やきのこ、木の実を採取して食べたり、折れた木を使って小屋を作ったり、集団遊びをしたりするのだが、数や文字を教えたり、絵画、絵本の読み聞かせや歌を行ったり、またパペットやカードを使って話すなど、野外でもしっかりと室内のような保育を行っていた。またタブレットなどのデジタルツールを使用し、昆虫を写真に撮りそのあと図鑑で調べたり、顕微鏡カメラと連動してじっくり観察したり、自然の音をアプリで録音してその音の波長の違いを絵にかいてみたり、自然・アナログとデジタル・科学をうまく融合させていた。また自然の中だからこそ環境問題についても実体験で学び、意識することができる。また子供たちが持続可能な社会について考え、そのために自分たちに何ができるかを考える場にもなる。アウトドアクラスの先生たちは子供についての知識だけでなく自然物についての知識や、自然公園の立地や特徴、環境問題についての知識も求められる非常に専門性の高い役職であることがわかった。自然から学ぶことはたくさんあり、自然の中だから学べないものは何一つないのだということ、そして、学ぶのに場所は関係ない（室内でなくてもいい）ことを学んだ。

プレスクールクラスについて

プレスクールクラスは、小学校1年生（7歳児）とプレスクール（5歳まで）を繋げる橋渡しの1年間で6歳児が通う義務教育の始まりの学年として位置づけられている。クラスは小学校の中にあり、小学校1年生のクラスと隣り合わせで配置されていた。

プレスクールクラスでは遊びと学習の相互作用に焦点をあてているため、5歳児まで経験したプレスクールのスタイルである自分で選択して遊ぶ時間を取り入れつつ、みんなで学習する時間もあり、まさにプレスクールと小学校の橋渡しの役割を果たしていると感じられた。プレスクールと同様、プロジェクトの活動をグループ単位で行っており、学年全体で統一のテーマでプロジェクトを行いながら、その合間に、科学、数学、体育、音楽、実験、遊びを行っている。集団活動や主体的な活動を両立させるとても重要な1年であると感じ、就学前教育が多様化する日本にも必要な仕組みであると感じた。

■視察成果

この視察で何度かでてきたキーワードは、子供の人権、持続可能な、環境、多様性、民主主義、批判的な意見、創造性、自主性等があげられる。これらのキーワードこそが今回の学びだったのではないかと感じる。スウェーデンの教育の根底は、遊びを中心に環境を通して行う教育で、子供たちが主体的に学び、子供たち同士の対話から学びを掘り下げ持続的な学びに発展していくことであり、これは日本の教育と同じといえる。しかしスウェーデンと何が違うのかと考えたとき、幼児教育が社会と強く結びついていることである。スウェーデンでは子供たちの学びが地域や社会に反映され、自分たちの行動が社会に影響を与える経験を幼いうちから何度となく実体験する。特にアウトドア教育は実社会と繋がる、よりリアルな教育である。それが子供の主体性や創造性、民主主義、主権者意識を育て、また移民が多いという社会背景が、子供たちに多様性や言語教育、自主性を生み、森の教育で環境問題を意識させ、それらを相互に合わせて全体として子供の学びが持続可能な社会をつくり、自分はその社会の一員で、自分たちで社会を創っていくのだと意識することができるようになるのだと思う。この主体性や自分で変えられるという経験の積み重ねで、主権者意識が高まり、生涯学び続ける姿勢に繋がり、SDGs への取組みや持続可能な社会へ貢献するもとになるのではないかと考える。

子供たちの学びが実社会と繋がる、自分たちのアイデアや創造力で社会が動くという経験を、日本の子供たちにもより多く経験してもらうことが今の日本の教育には必要ではないかと考える。またこれからの社会は多様性の社会と言われ、そのことを見据えて幼児教育にも多様性を取り入れていくことで、子供たちの20年後に貢献できる教育を行っていくことこそが、今の幼児教育に求められていることだと考える。

特集6

園外保育と安全管理

生き物との出会い 場とのつながり、自分の中の発見

植物編&生き物の飼育

日向（ひゅうが） 崇紹（たかつぐ）

自然案内人

子どものための
自然体験アドバイザー

身近な自然環境ではじまる、いつでもはじめられる自然体験として、園庭での遊びや園外の散歩をすることで子どもたちの中で何が起きているのでしょうか。言葉に正確に出して保育者に伝えられないような自分だけの小さな発見をしていることでしょう。そういった体験を重ねていく幼児期では、自然の中で感性を養うことと、大人の愛情につつまれ子ども同士がもまれて育つことが、豊かな「感性」と人間愛や信頼感を育てることにつながります。

さて、以上のように連載その1でお伝えした通り、遊びのワクワクと危険のドキドキのバランスを意識した、繰り返し体験のできる身近な自然体験として草花遊びや生き物の飼育についてを最終回の内容とします。

草花遊びの醍醐味

草花や樹木の自然物は、見た目の形や肌触りや色合い、香りや味、また動きや音をつくることで、単にそのものの発見に収まらず様々な静と動の遊びに発展させることができます。とりわけ生き物や何かに「見立てること」は単純で楽しむことができ、創造を膨らませることができます。

三角に近い石の形がおにぎりに見えたといったようなことが経験ありませんか？このように普段から知っているものに似ていると、それを思い浮かべてしまうパレイドリア効果があります。このように脳の働きで瞬時に判断してしまいます。同じように何気なく木目を目にしただけでそれが顔に見えてしまったことは誰にでもあると思います。人間の脳は（∵）のように逆三角形に集合した三つの点や線を見つけると顔に見立て認識してしまう働きもあります。この現象を利用して、例えば園庭内で木の樹皮にペットボトルキャップなどの人工物を二個取り付けて顔に見立てるだけでも十分に楽しめます。

木の顔

見立てるだけではなく、葉で音を鳴らす草笛や葉を飛ばす動きのある技巧的な遊びや、花飾りの冠をシロツメクサ（クローバー）で作る髪飾りの遊びもよく知られています。このような遊びを通じて実際の葉や枝から得られる情報は非常に多くあります。「木から葉を1枚手に取る」というだけの行為で、艶や裏側の色を目で感じ、手で触り肌触りや厚みを感じ、ちぎる瞬間や他の枝葉の揺れの音を聞き、ちぎった後の草木の香り・匂いを感じ、時にはスイバの酸味のように味覚に訴えかけられることもあります。このように草花遊びは五感を絡めて体験を深めて記憶に留めてくれます。このように伝承遊びと同じく過去から脈々と受け継がれてきた草花遊びは、身近でありながら男女問わず子どもたちを引きつける力があるのです。

イネ科の葉で草笛

※私有地や都市公園内での採取は原則として禁じられています。草花遊びを楽しむ場合は行き過ぎた活動とならないように、事前に許可や承認を得るなど園や保育者として注意しましょう。

潜む危険を知っておこう

私が森の先生として先導すると、出発まもなく子どもたちからまず質問されることは、どんな危険生物がいて自分たちを襲ってくるのかについてがパターンとなっています。もちろん前回その5のテーマのマダニは葉に付着しているので心配ではありますが、有毒生物であり日本の在来種でもあるクモも存在しているのです。カバキコマチグモというクモのメスは、イネ科の葉を器用に折り返し丸めて産卵します。折り返された葉を素手で開くなど無用に手出ししなければ咬まれることはないのですが、草花遊びをする中では薔薇の仲間の棘に引っ掻き切り傷になるノイバラや、イネ科の葉でナイフのように皮膚を切ってしまうことと同じように気に留めておくと良いでしょう。

また、皮膚の炎症・かゆみやかぶれの原因として植物ではウルシの仲間があり、動物ではイラガの幼虫（そのピリピリする痛みから電気虫と呼ばれていることもあります）も注意が必要です。樹皮や葉にいる幼虫の毛に触ってしまうことで毛（毒針）が皮膚に付着します。その後の子どもたちの様子は泣き止むことなく、ほぼ惨劇を見ることとなります。早い段階で流水で毛を洗い流すことなどの適切な対処をしないで、誰にも気づかれずに本人が掻けば掻くほど細かな毒針があちらこちらに広がり痛みの面積は広がり、そうそう簡単に治る気配を想像させてはくれません。全ての種類の毛虫によって引き起こされるのではないものの、子どもが痒み出した時点で保育者が毛虫の存在を確認してみることも解決のヒントとなります。

他の視点では、「食」について留意が必要かもしれません。フユイチゴ、ムカゴやマキノキの実や、マテバシイの実などのドングリを食べることなど貴重な体験ではあります。園の考え方や周辺の自然環境によって可能な体験の有無や程度は違うものの、スイセンをニラと間違った誤食や有毒キノコを誤食したといったニュースは年間でも（多くは中高年の方ですが）何度も耳にします。自分から襲ってくることのない植物でも一度体内に入ってしまうと、アレルギー物質も同様ですが取り除くことはできません。また有毒キノコについては分類や特定することが難しく、触れることでさえ危険な種類もあるので、無難なのは触れないことでしょう。

森のドングリ

生き物との対峙

同じ場所に出向いても季節の移ろいや昼夜で生き物は棲み分けや食い分けをしていることを、私たちは生き物としっかりと対峙することで知ることができます。生き物を捕まえてはじめることになった飼育場面から、「こんな食べ方するんだ！」などと生態を知っていくことでしょう。食べ物となるエサの種類や棲むための空間のサイズや隠れる場所、また繁殖行動についてまで、保育者や子どもたちの経験では想像を超え生育環境の再現は困難なことが多く、飼い始めに想像するような理想的な飼育展開は失敗になってしまうことが多いものです。しかしその失敗から不思議さを膨らめていくことで発見があり、どう声かけするのか、保育者の知識や視点が必要となります。虫カゴでは体が傷つく生き物なのか、温度・湿度が適度なのか、水槽が小さすぎないか生き餌の確保は確実にできるのか等々と、もしかしたら人間の住まい探しよりシビアかもしれません。

触るだけでも危険なカエンタケ

モズのはやにえ（早贄）

もちろん、飼育が成功した場合の感動する心を膨らめておくことも不可欠です。共食い場面だけでなく、カタツムリが雌雄同体であることやカマキリのお尻から出てくるハリガネムシ、ゲンジボタルの幼虫が光ることなど、しっかりと対峙することで生き物たちから与えられる驚きや感動は尽きることはありません。飼育場面だけでなく、そもそも生き物たちの生態というのは人間社会と違い、例えばオスとメスが一匹ずつで結婚することなどなく一筋縄では子どもたちに説明し難いことがありますが、私はそういう瞬間こそが感動を共にできるチャンスだと思って接しています。

一方、生態系を守る視点をもつことを強く求められている時代でもあります。アメリカザリガニやブラックバスと世間でも知られている外来生物の中でも、繁殖力が強く自然環境や人間への被害が大きいものを特定外来生物と呼び、近年話題になっているヒアリやウシガエルは捕獲・飼育・運搬すると法的に罰せられます。もちろん、アメリカザリガニを飼育できなくなってどこかに放流してしまうことなど、外来種を増やすことにつながる行為はせず、保育者として最低限の正しい知識を持っていたいものです。

子どもたちに人気のザリガニ

自分を含めた複雑な世界とのかかわりを考えるかけがえのない機会

一見繰り返されているように見える草花遊びや、生き物を飼育するトライアルから広がる子どもたちと生き物の世界を、保育者はおおらかに見守り子どもたちと共にしていってほしいものです。そして保護者を含む全ての（忙しい）大人たちが、膝を折って子どもたちと同じ高さの目線になって体験を共有する機会をつくっていくことができたなら、多くの言葉は必要なく、感動を深めることができるでしょう。

そして自然環境という場がどこかに存在しているのではなく、周囲の子どもたちや大人たちといった他者を知り身近な生き物との関わりを深く知り考えることで、自分の内面へのまなざしを育むことができるのだと考えます。そこを足掛かりに自然や自分自身についてさらなる発見や感動を積み重ねて、絶えず変化し複雑に絡みあって成り立つこの世界の中で、生き抜く力のある未来の自分をつくることになるのでしょう。

自己紹介　日向崇紹

常葉大学にて教育学・自然環境復元について学び、現在は児童福祉の施設長として勤める傍ら、総合学習（自然環境）の支援、幼稚園児の自然遊び・生き物探しや、保育者対象の園外活動の指導・危険な動植物・ケガの対処等の講座を開催。日本環境教育学会員、静岡市環境学習指導員。また野外や災害時に特化した海外の救命法や小児専門の救急救命法、日本山岳ガイドなどの資格取得の経験がある。山梨県生まれ、藤枝市在住。

※講師依頼等のお問い合わせ先はEメールからお願いします⬇ children-nature@au.com

絵本作家むらまつけーじのお絵描きのこと

■プロフィール

むらまつけーじ（絵本作家）

1985年静岡県藤枝市生まれ。
常葉学園短期大学保育専攻科卒業。
幼稚園教諭として藤枝にある志太幼稚園、青島こども園で8年間勤務。
その後、東京にあるパレットクラブスクール絵本コース19期修了。
現在、地元静岡県で絵本作家として活動中。
イラストや絵本の仕事をしながら、
イベントではワークショップも行っている。

著書の絵本
『いっぱいいっぱいありがとう』（2018年出版）
『はなとりじぞう』（2020年出版）
『しょくじんきくようのとうだんご』（2020年出版）
【ホームページ】 kg－baku.com
【Facebook】 Keiji Muramatsu

☆絵を描くことは、本来楽しんで行うこと

前職は、地元の幼稚園、こども園で8年間保育者として働いていました。その時の自分の得意なことと言えば、体を動かすことと、絵を描くことでした。

体を動かすことについては、子どもたちと一緒に鬼ごっこで園庭を走り回ったり、ボール遊びをしてみたりと、自身も子どももお互いが満足のいく活動ができていました。

しかし、絵を描くこととなると、話が違いました。自分自身、絵を描くことは好きでしたが教えることに関しては、いつも満足できませんでした。子どもたちも同じように満足できていなかったのではないか、と感じます。動物園に遠足に行った後の、動物の絵、運動会の絵、劇ごっこの絵など、園の中で様々な場面で絵を描くことがありました。

その度に、自分としても「どうやったら子どもが、のびのびと絵を描けるのか？」「どうしたら子どもたちの、創造力を高めてあげられるか？」「どうしたら、子どもたちが楽しく活動できるのか？」を常に考えていました。絵を教えるということが、どれだけ大変なことかということを実感しました。そもそも、「絵って教えるものなのか？」という疑問も感じていました。

実際に、園で働いている保育者のみなさんも同じような経験や、思いを持っている方も多いと思います。今回は、自分の過去の体験なども交えながら、『お絵描きのコト』を伝えていきたいと思います。

☆子どもは先生大好き、真似したい、でも……

みなさんもこんな経験をしたことがありませんか？

僕の経験では、みんなで動物の絵を描くときのことでした。それぞれの好きな動物を描くことになり、自分の好きな動物を想像したり、図鑑や絵本などを見て描きました。中には、絵を描くことが苦手な子もいたので、見本として僕も動物を描いてみんなの前に張り出しました。すると、どうでしょう？苦手な子は、先生の見本と同じに描き、自分で頑張って描いていた子も途中で上手く描けなくなり、先生の見本を見て描き出してしまったりして、子どもたちの中で同じような絵が出来上がってしまいました。

子どもたちからしたら、「大好きな先生が描いた絵と同じように描きたい！」「真似して描けば、上手に描ける！」と思うのはあたり前だと思いますが、こ

れでは、絵を教えることにはならないと思うし、ただ先生の描いたものを見て写す作業になってしまうと思います。

また、子どもたちが一番困ってしまう声の掛け方としては、「自由に描いていいよ！」だと思っています。好きに描いていい、自由に何でも描いていい、と言われても苦手な子は何を描いていいか分からず、余計苦しめてしまうことも知りました。そんな子たちには、描くものを限定したり、絞ってあげることが必要です。

僕自身も、このような保育の経験から、「では、どうしたら子どもたちが楽しく絵が描けるのか。」を探りながら考えましたが、結局答えが見つかりませんでした。

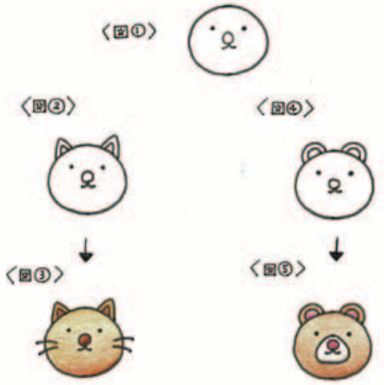
☆『きっかけ』が大事！

絵本作家になり、子どもたちにも『絵を描くコト』が楽しいと感じてもらいたい、好きになってもらいたい、という思いが強くなり色々と考えました。そんな中、きっかけ作りにと出来上がったのが、むらまつけーじ考案の『おえかきえほん』の『どうぶつおえかき』です。

そもそも、絵が好きでスラスラ描けてしまう子はいいのですが、絵が描けない子、苦手な子はまずどこから、何を描いていいのかさえ分からないと思います。

そう感じた時に、まずは「土台」が大事だと思いました。その「土台」が、図①になります。

この、図①の「土台」に少しプラスして絵が完成することができたら、難しくないし、子どもも簡単に描けて、さらに描けたことによって達成感も得られると感じました。



内容としては、次の通りです。

（事例1　ネコの描き方）
①「土台」に、三角の耳をつける（図②）
②続いて、ヒゲをつけて完成（図③）

（事例2　クマの描き方）
①「土台」に、丸く耳をつける（図④）
②鼻と口を丸で囲んで完成（図⑤）

どうでしょうか？とても簡単に動物が描けませんか？これなら、苦しむことなく、絵を描くことが苦手な子も自分で描けたという達成感を味わえると思います。今すぐにでも、保育に取り入れることができます。保育の中では、子どもたちと一緒に、この「土台」の顔にちょい足しをして、他にどんな動物ができるのかを探してみるのも面白いと思います。みんなで考えることで想像力もつきますし、新しいオリジナルの動物も出てくるはずです。また、顔を描いた後は色をつけて、塗り絵にも使えます。

まずは、『きっかけ』作りとしてこの『どうぶつおえかき』をしてみてはいかがかと思います。子どもだけではなく、大人の方も！

僕自身も、ワークショップにて『おえかきえほん』をやる中で、参加者のみなさんから「初めて自分で上手に描けた！」「簡単に描けるー！」などの声を頂いてます。

ぜひ、たくさんの方に活用して頂き、『絵を描くコト』が楽しい、また好きになってくれる子が増えることを願っています。

先生になって思うこと

龍の子幼稚園　太田 美希

学生時代に実習生として実習をさせていただいた時に、担任の先生と子ども達が毎日笑顔で過ごしているのを見ました。そして、私自身も毎日楽しく実習を過ごせました。子どもの発言や行動に対して「それいいね！やってみよう」と笑顔で関わる担任の先生のように毎日楽しい保育がしたいと、憧れを抱き保育の道を志しました。

憧れの先生と同じ園で「先生」と呼ばれるようになった1年目は年少児クラスの担任を命ぜられました。何もかもが分からず、毎日の保育で精一杯になってしまい、自分自身に余裕がありませんでした。先輩の保育と見比べて、自分は先生に向いていないのではないか、楽しい保育なんてできないと自分の情けなさに何度も涙を流したこともあります。

2年目になった現在も、昨年度と同じく年少児の担任をさせていただいています。無我夢中で取り組んだ1年目の経験をもとに、「こんな声掛けをしてみよう」「こうしたら楽しいかな」と、事前準備をしっかりし心に余裕を持って保育に取り組むようにしています。また、毎日の保育の中で疑問に思ったことや、困ったことは先輩の先生にアドバイスを受けると、子どもの個々の状態が見られるようになりました。1年目に比べて毎日に見通しを持って過ごせるようになりました。子ども達は笑ったり泣いたり、毎日全力です。そんな子ども達と楽しく過ごすためには私自身が楽しむこと。楽しむためには心に余裕がないと楽しめないということに気付きました。

泣いてお母さんと離れられなかった子が笑顔で登園してきたり、食事に興味がなかった子が自慢げにピカピカになったお皿を見せてくれるようになりました。また、自分の感情が上手く表現できなかった子が笑顔で挨拶をしてくれるようになったりと、子ども達と嬉しい気持ちを同じ時に共有し喜べる「先生」という仕事はとてもステキだなと思います。「先生、大好き！」と真っ直ぐ気持ちを向けてくれる子ども達。そんな可愛い子ども達の成長を見守ると共に、私自身も子どもに成長させてもらう毎日です。時には自分の保育や子どものことでどうしたら良いかと悩む時もありますが、これからも全力で子ども達と関わっていきたいと思います。

一年を通して学んだこと

桜ヶ丘幼稚園　内野あきの

私が幼稚園教諭として働き始めてから、早いものでもう1年が経とうとしています。働き始めたばかりの頃は、分からないことも多く保育の悩みや不安でいっぱいの毎日でした。しかし、そんな時には先輩の先生方が優しくアドバイスをしてくださり、子どもたちの笑顔に支えられながらここまで過ごしてくることが出来ました。

幼稚園教諭という職に就き、子どもたちと毎日関わる中で私が感じたことは、「幼稚園教諭の仕事が大好き！幼稚園教諭になってよかった！」ということです。4月入園したばかりの頃は、毎日泣いて登園していた子、牛乳が苦手で飲めなかった子、信頼関係がうまく築けなかった子など、子どもたちのさまざまな姿に悩みました。しかし、1年間の子どもたちの成長は私の想像以上であり、とても感動し、やりがいを感じています。「先生、ありがとう！」「幼稚園大好き！」という子どもたちの言葉と笑顔に私自身何度も救われました。『子どもの思いを受け止めた上でどんな声掛けをしたらよいのか』『子どもたち一人一人に応じた保育ができているのか』…正解が分からず自信を無くしてしまうことも時にはありましたが、自分のできることから精一杯、試行錯誤しながら保育を学びなおす毎日でした。子どもたちの姿はすぐに変わるものではなく、保育の難しさを感じながらも、1年目だからこそ先輩方の保育を学ぶチャンスなのだと捉え、多くのことを学ばせていただいた1年でした。

日々の保育の積み重ねは必ず子どもたちの成長に繋がっていきます。私自身まだまだ未熟な点も多く課題もありますが、これからも自分の保育に満足することなく、子どもとともに学ぶことを楽しみ、子どもたちの成長を支えていきたいです。そして、子どもたちに寄り添った保育を展開できるよう、保育を学び続ける姿勢というものを忘れずにいたいと思います。子どもたちが成長し幼稚園時代を思い出したときに、「幼稚園楽しかったな」「先生はいつも笑顔だったな」と、楽しい思い出として子どもたちの心に残るようこれからも一生懸命子どもたちと関わっていきたいです。

仕事を楽しむために

まどか幼稚園　佐々木あゆむ

幼稚園で働き始めて十二年目を迎え、仕事が楽しいと感じる毎日を送っています。振り返ると新任の頃は、右も左も分からない状態で、楽しむ余裕は全くありませんでした。毎日緊張しながら、言われたことを行う受け身な姿勢で仕事に取り組んでいました。今思うとありがたい先輩からのアドバイスも、当時は怖いと感じることもありました。

数年後に自分が先輩となる立場になり、後輩への関わり方に悩むこともありました。後輩に良く思われようといい顔をして、注意すべきことも厳しく言えないこともありました。他の先輩から注意されている後輩を見た時、私は表面上優しい先輩だったかもしれませんが、言うべきことを言わないでは、後輩にとって全くためにならないことだと痛感しました。

そのような経験から今では後輩に対してだけでなく、先輩に対しても自分の意見はしっかり伝えています。私たちの幼稚園の会議は意見がない場合は参加不要のため、自分の意見を持って参加します。先輩方の意見を聞くことはとても勉強になり、自分も意見を出すことでアドバイスをもらえます。厳しい中にも優しさがあり、自分自身も成長できます。

私は仕事をする上で「明るい雰囲気」を大切にしています。園の明るい雰囲気作りには職員間の関係が良くなければ実現できません。職員間の関係を良くするためにはコミュニケーションをたくさんとることが必要で、良いコミュニケーションをとるためには自分の言動や表情を意識すること、アドバイスをもらったら素直に聞き入れること、自分の考えをきちんと伝えることが大切だと思います。コミュニケーションを深める一環としてコーヒーメーカーを持ち込み、誰でも自由に飲むことができるようにしました。職員の中でどの味が美味しいか、オススメのカフェの話など会話が生まれ、職員間の話しやすさが増しました。

これまで生きてきた環境や性格も違う者同士が集まって今一緒に働いています。考えが全く同じという人はいません。一人ひとりが自分の意見を出し、相手の意見も尊重し合うことでより良いものが生まれます。周りの行動を待つ受け身な姿勢ではなく、自分から行動を起こすことを意識して、日々成長していきたいと思います。

憧れの先生をめざして

富士宮聖母幼稚園　望月和美

私が幼稚園の先生になりたいと思ったのは、幼稚園児の頃のことです。子ども心に何でもできて、何でも知っている先生はすごい、私もそんな先生になりたいと思ったのが初めです。その後夢はいろいろと変わりましたが、進路を考えたときに、やはり初めの夢である幼稚園の先生を目指すことにしました。

念願の先生になったばかりの頃は、結婚したらやめよう、子どもができたらやめよう、とやめることばかり考えていましたが、結婚と出産を経てもやめることなく勤め続け、二十余年が経ちました。今ではやめることなど考えられません。

なぜ、続けられるのか？それはやはり、子どものおかげでしょう。子ども達のあの澄んだ瞳、純粋無垢な表現等々、この年になっても子ども達にたくさんのパワーをもらっています。毎日同じ流れでも、毎日少し違う日々。昨日できなかったことが今日できた。友だち同士で助け合う姿。毎日確実に成長していく子ども達に教えられることがたくさんあります。

初任者の頃は、一日一日を過ごすだけで必死の毎日でした。子どもより余裕のない先生だったと思います。自分の保育にも自信がつき少し余裕も出てくる中堅期、中堅期より少し上になり、自分のことだけでなく若い先生や園全体のことも考えていかなければならなくなった現在。どの時も自分なりに精一杯頑張ってきましたが、今の私は自分が幼稚園児の頃に憧れた、何でもできて何でも知っているすごい先生になれているのかなと考えると、まだまだだなと思います。あっという間に過ぎてしまった二十余年。もう半分以上勤めてしまったかと思うと月日の流れに驚かされますが、残りの年数、自分が幼い頃に憧れた先生に近づけるよう日々学び続けていきたいです。

私が勤め始めた頃とは幼稚園に求められるものが変化してきています。働く条件も厳しくなっていますが、幼稚園教諭として子どもと向き合う根本は変わりません。悩み、辛くなってしまうときもあると思いますが、こんなにやり甲斐のある仕事に就けたことに感謝しています。日々成長していく子ども達に元気をもらいながら、同じ幼児教育に携わる先生達、これからも一緒に頑張っていきましょう。

息子の成長

花園幼稚園　ＰＴＡ会長
井田 未奈美

我が家には小学四年生の娘と年長の息子がいます。

上の子はお転婆娘でお喋りが大好き、幼稚園生活もつまずくことなく過ごせましたが、息子は頑固で甘えん坊。満三歳児クラスから幼稚園に通い始め、順調に過ごせていました。年少、年中では「幼稚園に行くの嫌、ママと一緒がいい」と毎日、幼稚園に着くと私からなかなか離れることができずに先生達には大変な迷惑をかけ悩んだものです。ですが息子の通う幼稚園の先生達に親身に話を聞いて頂き、根気よく息子に向き合ってもらえた事で息子も変化していきました。

年長になると幼稚園で一番上のお兄さんという自覚が芽生えたのか、朝もすんなり幼稚園の中へ入ることができ、ニコニコでバイバイができるようになりました。幼稚園から帰ってくると「幼稚園、楽しい。早く行きたい」嬉しい言葉が聞けるようになりました。年少、年中の二年間は子育てしていてすごく悩んだ時期でしたのでこの言葉を聞いた時にはとっても嬉しかったです。

心も体も成長した息子!! 今、苦戦していることは給食です。元々好き嫌いが多い息子は幼稚園の給食を全く食べません。担任の先生もどうしたら食べられるのか一緒に考えてくれ、今は一口チャレンジを自らするようになりました!!

まだまだ完食することはできませんし、このまま一年生になってまたつまずくかもしれませんが息子なら大丈夫だと信じて見守りたいと思います。

幼稚園生活も残りわずかとなりました。幼稚園最後の行事、遠足、運動会、発表会。一つ一つの行事に向けて一生懸命練習を重ね、皆んなで心を一つにし、達成することの大切さを学びました。

この三年半でのたくさんの大きな経験、花園幼稚園で教えて頂いたことは今後の小学校生活の大きな土台となることと思います。

小学校での息子の成長がまた楽しみです。

実り多い幼児期

たかおかこども園　ＰＴＡ会長
望月 美幸

私には、三人の子供がおり、たかおかこども園にお世話になり今年で九年目となります。

園は、「思いやりの心を育てる」「一人ひとりを大切にする」「意欲的な子を育てる」を教育方針とし、様々な教育への取り組みを行っております。その中で園の特色の一部をご紹介させて頂きます。

まず一つは、音楽教育です。市内随一の楽器保有数を誇り、専門講師をはじめ諸先生方が、園児に熟心に指導してくださいます。更に、年に何回もコンサートを行います。学年が上がるに連れ、難易度も高くなります。運動会での年長の鼓隊演奏は、迫力があり素晴らしいものです。子供達は、沢山の曲や楽器に触れ、様々なことを学びます。

次に挙げられるのは食育です。五年前より、園で調理されたバランスの良い美味しい給食を頂くことができます。その他、園の畑があり、園児自ら収穫し調理して食べることもあります。最近では、魚の解体を見たり、いろんな角度から食の大切さを学びます。

他にも、講師を招いての英会話・体育教室、ＰＡＰＡ′Ｓという父親ならではの活動等、様々な取り組みがあります。更に、園舎は掃除も行き届き、いつもきれいです。園庭も芝生なので、のびのびと動くことができます。

私達ＰＴＡ理事の活動としては、主に運動会のお手伝い、夏祭りの模擬店、音楽発表会の会場整理等です。夏祭りでは、毎年クラスごと子供達が喜びそうなお店を考えて行い、大勢の子供達と触れ合うことができます。理事の方々は、協力的かつ賑やかで、とても楽しく活動しています。先生方も気さくで、何でも相談に乗ってくださり、会長という大役も、大船に乗った気持ちで務めさせて頂いております。

私も、たかおかこども園の園児の母として、今年度卒園いたします。可愛い盛りの子供達と触れ合い、沢山元気を頂きました。残り数ケ月も仲良く楽しく活動し、子供達と共に悔いの残らない卒園をしたいと思います。

教員養成機関との意見交換会

今年度も教員養成機関との意見交換会を、令和元年11月26日火曜日午後1時30分より私学会館5階大会議室において開催いたしました。当日は、千葉理事長の挨拶があり学生就職応援プロジェクトの大石リーダーより取り組みについて説明がありました。その後4つのグループにわかれ、分散会を行いました。

分散会では教員養成校を対象にアンケートを実施し、最近の学生の考え方や実習の感想、就職の傾向などを調査した結果と、当協会の幼稚園、こども園に実施した養成校への希望等を尋ねたアンケートを元に課題を探り、テーマを①卒業生の就職先の状況から就職に向けた学生の傾向　②実習を終えて感じたこと　③その他の3つに絞りディスカッションしました。

①卒業生の就職先の状況から、就職に向けた学生の傾向では

（養成校）

・東京、神奈川や愛知県からも直接学生に向けアプローチする企業が多い

・都会は給与など福利厚生の面で、段違いに待遇が良い傾向にある

・非常勤での採用期間などを避けたい学生が多く、雇用の安定性を重視し、公務員に流れる傾向もある

・職場の人間関係や雰囲気を重視し、よく見ている

・実習中に感じたチームワークや現場の先生との関係が就職につながっている

・複数担任を希望している。また、そのような待遇をしてくれる園を希望する傾向がある

（幼稚園）

・学生が先生の仕事の本質を見ず、表面的な楽さや楽しさだけを見て、判断してしまうことがさみしく思う

・福利厚生面では、住宅手当など地域性もあり難しいとは思うが、働き方改革として園側も努力する必要もある

・学生が感じる人間関係は、直接自分に対してと職場自体と両方だと思われる。職場の意識改革も必要ではないか

・一定期間内に単位が取れず、就職のタイミングを逃している学生についても、園に情報をもらえるとありがたい

②実習を終えて

（養成校）

・日誌の書き方は重要視し細かく指導しているが、とにかく日誌に時間がかかる

・希望に燃えて実習に出たはずが、実習を終えて心が折れて帰って来る学生がいることもあり、とても残念で悲しい

・ピアノが苦手などの理由で、幼稚園をあきらめる傾向がある

・愛知県では、実習調整会で日程を決めている

・2、3月は、学生も時間に余裕がある。園見学や自主実習を受け入れてくれるところがあれば教えてほしい

（幼稚園）

・実習での感想等をSNSなどに投稿することはやめていただきたい

・自主実習は、積極的に受け入れていくようにしたい

・ピアノは最重要課題ではないが、最低限度の練習はしてほしい

・ピアノにこだわる必要はないのではないか

③その他として

（養成校）

・保育所が行っている就職フェアを幼稚園も開催したらどうか。浜松や富士市などは行っている。静岡市も開催してほしい

・幼稚園の先生の希望者自体が減っている。中学や高校の職場体験での印象が良くないのではないか

・まず、中学の職場体験や高校生のインターンシップでよい印象をつけて頂き、養成校への　進学希望につなげてほしい

（幼稚園）

・大学等へ直接出向いて、幼稚園の良さを伝えたい

・就職フェアが私立幼稚園のアピールではなく、幼稚園同士の学生の取り合いにつながってしまうのではないかという心配もある

・若手の教育には、3年～5年の長い目で見ていこうという意識改革を進めている

各分散会では、以上のような意見が活発に交わされました。

今後は協会として就職応援プロジェクトをより充実させ、ガイダンス・就職キャラバン・就職応援フェアなどの開催についても協議していくと共に、魅力ある職場作りに一層努力が求められるのではないでしょうか。この意見交換会が、教員養成機関と当振興協会の発展につながることを期待しています。

楽しくできる ラクチン食育 その3

末永 美雪

長野県生まれ。
静岡県立静岡女子大学　食物学科を卒業後
静岡厚生病院栄養科に栄養士・管理栄養士として勤務。
その後、静岡県立大学　食品栄養科学部、静岡県立大学　環境科学研究所、
常葉学園中学・高等学校、静岡英和女学院高等学校、静岡市立高等学校、
などで研究室非常勤助手や教員として勤務。
H12 年 4 月から、東海大学短期大学部　食物栄養学科　教授
H28 年 4 月から、静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科・社会福祉学科介護福祉専攻非常勤講師
専門分野は、臨床栄養学・栄養教育（栄養指導）
研究テーマは「食育」特に乳幼児期と高齢期の食事と健康

みんなと連携 ラクチン食育

子どもの食に関する体験を豊かにするためには、幼稚園だけではなく、地域や特に家庭と連携して食育を進めることが大切です。多くの保護者は、時間に追われた忙しい日常生活を送っています。そんな保護者が自ら食育に関心を抱き食に関する意識を高めることは、難しいのが現実でしょう。では、どのような働きかけをしたら家庭での食育の関心を高めることにつながるのでしょう。

具体的取り組みとして、まずは先生が園での子どもの食事の様子を保護者に伝える機会を増やしていくことが必要です。親は自分の子どものことには関心がありますから、無理なく進めることができると思います。その中で家庭からの相談に対応できる体制が整っていること、助言や援助を行うことができることを分かってもらいます。今はインターネット環境が整っているので、送迎時は慌ただしくてゆっくり相談する時間がない場合でも、スマートフォンやパソコンといったＩＴ機器を活用すれば支援が容易にできます。

しかし、支援するには、保護者と先生との信頼関係の構築が無くてはなりません。どうしたら信頼関係を築けるでしょうか。そのために最も有効な方法が「笑顔で挨拶すること」です。送迎時にほんの一言でも先生から暖かい笑顔で「お迎え有難うございます」「お仕事お疲れ様です」と声をかけられたら保護者は安心と信頼を感じるものです。その場では、態度に示すことがなくとも保護者の心の中に、小さな「信頼の火」を灯すことができます。大切なことは毎日それを心から繰り返すことです。次第に保護者から挨拶されたり、子どもの様子を質問されたり徐々に信頼関係が構築されるでしょう。先生は味方であり、無条件で助けてくれる存在であることを分かってもらうにはこれが一番早道です。

次のステージは保育参観や試食会等に参加していただくことです。最近は働くお母さんも増え、仕事で忙しく疲れていたり、休みはゆっくり寝ていたい保護者に園の活動に参加してもらうのは高いハードルがあります。そんな時に有効なのが「参加することがあなたの得になる＝利益につながる」と感じていただくことです。保育参観や保護者懇談会を通して、保護者同士の交流を図りネットワークを作ることができます。困ったことや悩みを保護者間でも共有し助け合う関係を築けます。

試食会参加では、子どもとともに楽しく食体験できます。子どもに適した食事量の把握、調理法や食材選び、レシピ等家庭での食事にすぐに役立つ情報を得ることができます。食事作りや健康に関心が薄い保護者の場合、衣食住の子育ての中で特に負担を感じるのが食事だと言われています。なれない離乳食や幼児食を食べさせるだけで疲れてしまい、やがてどうして良いか分からなくなってしまうこともあります。さらに他の要因が加わると、育児放棄や虐待へつながることが心配されます。試食会に参加することでこれらの不安が解消されることも多いようです。また、調理員や栄養士といった専門家の同席があれば、簡単に食卓を整えるコツも聞くことができるでしょう。不安がなくなれば子どもとも向き合うことができ、家庭の養育力向上につながります。調理員や栄養士の協力を得て幼稚園・こども園の調理室等を活用し、食に関する支援や相談をおこなうこともできるでしょう。先生だけが頑張るのではなく、園のみんながそれぞれの立場で専門性を発揮し協力すれば食育の実践を広げることができるのです。

さらに地域住民の協力を得て、園庭の一部に菜園を作ったり、郷土料理の講師になっていただいて料理講習会を開催したり、現役の農家や漁師から仕事紹介や、農作業や収穫体験をお願いしたり様々な食育活動が可能です。園だけで頑張るのではなく、地域の子どもを地域住民が皆で協力して育てるという考え方が今求められているのです。

健康随想 8

食物こぼれ話（その5）

上野幼稚園　吉野友勝

私たちはあまり意識はしていないが、自分が食べる物・飲む物で血液も細胞もつくり、生きるエネルギーも生み出しています。その基本は、拡散する力・遠心力の陰と収縮する力・求心力の陽です。心臓・肺・胃・腸等の臓器は拡散と収縮を連続的に繰り返して活動しています。神経も交感神経と副交感神経があり、興奮と抑制の調和をとっています。調和がうまくできないと自分を律する力が弱くなり、陰気や陽気になりすぎたりします。

漢方医学の世界に、陰陽どちらのエネルギーが強い食べ物かを調べる方法があります。私たち素人でも簡単にできます。

0（オー）リングテスト

二人一組でやります。中身がわからないよう紙に包んだ砂糖と塩を用意します。一人が利き手の親指と人差指で0（オー）の字を作り、もう一方の手は広げ、そこに砂糖か塩の包みをのせます。もう一人の人が両手で0（オー）の字を広げようとします。0（オー）の字を作った人は広げられないよう力を入れます。どちらの包みの時に親指と人差指が簡単に離れてしまうか試してみて下さい。一般的には砂糖の包みの時の方が力が入らず指が離れてしまいます。続けて塩の包みをのせてやってみると二回目なのにしっかり力が入ります。塩は陽性で収縮力が働くので力が入り、砂糖は陰性で拡散力が働くので力が入らないのです。漢方医は薬を処方する際、同種の薬でもこのテストを行い、力の入る方の薬を処方するそうです。

食べ物はエネルギーを持っているので手の平にのせても、その力は全身に伝わります。冷静に考えれば、私たちの周囲にある物は、素（もと）になるものに様々なエネルギーが加えられてできたものなので、何らかのエネルギーを持っています。作った人の「思い」というエネルギーも持っています。だから「大事に使う、もったいない」という教えがありました。大量生産・大量消費生活の中で何か大切な事を忘れてきたように思います。

修学旅行の記憶

私は中学教師でした。40年近く前、自動販売機と清涼飲料水が急速な広がりを見せた頃に修学旅行の担当をしました。京都限定という商品もありました。まだお茶や無糖のコーヒーはなく、清涼飲料は「甘い」は常識でした。余談ですが、自動販売機にお茶や無糖の製品を入れるのは冒険だったそうです。当時私は清涼飲料に含まれる砂糖の量とその影響に関する本を読んでいました。学年部会で旅行中の清涼飲料禁止と水筒持参を提案しました。どの商品も30～50gの砂糖を含んでおり全員が賛同しました。理科の先生は正確に計量した砂糖を重さ毎にビニール袋に入れたり、3g入りのコーヒー用スティック砂糖で量を実感できるようにしました。それらを手にのせた生徒の驚きは想像できると思います。冷えていると甘さを強く感じないので気になりません。また、先生は学校近くの歯科医院で抜歯した歯をもらい、買ってきたコカ・コーラをビーカーに入れ、その中に歯を入れました。24時間後に取り出して包丁で切ってみました。通常の固い物を切るくらいの力は必要ですが、あの固い歯が切れてしまいました。

「先生、この学校は清涼飲料を禁止していますね」挨拶に来た旅館の女将さんが言いました。「そうですが、どうしてわかるんですか」「部屋がきれいです。食事をしっかり食べます。具合悪くなる生徒さんもいないでしょ」清涼飲料が自由だと、塩気のあるポテトチップを中心にお菓子類をつまむのでごみ箱がいっぱいになり、食事を残す。そして具合い悪くなる生徒が出る。長年修学旅行生を扱っているとわかるそうです。現在は日本旅館はなく、個室形式のホテルが主流です。

虫（ハチ）刺され

田舎で水がきれいなので「ぶよ」がいます。虫刺されには昔から草もちの原料であるヨモギをもんでその青汁を塗りました。一般的に野草の青汁は効果があり、その化学式を調べて製造したのが虫よけスプレーや薬です。ヘビイチゴの焼酎漬も効果があります。園には知人を通して手に入れたパラオのココナッツオイルを常備しています。赤道近くの民衆が何百年も使っているものです。子どもにあまり化学薬品を使いたくありません。人間も自然界の一員ですから。

自宅で植木にからんだツルを引っ張ると突然キイロスズメバチが飛び出し手の甲を刺されました。一瞬で手がしびれ膨れあがり、経験のない痛みが襲う。パラオのオイルを塗り台所へ急ぎ天然の塩を口にし唾液と混ぜ、その間に患部をつまみ毒を出して唾液と混ぜた塩を塗る。数分で恐ろしい痛みは和らぎ、3時間位で腫れていてもかゆみを感じ始め、4日位でほぼ元に戻りました。自然医学の教えです。でも子どもには危険な痛みです。

1年間の ナイスショット特集

じゃじゃ～ん!!　じゃがじゃが～!!

かき氷屋さんの開店です！
今日のお客さん第１号は１歳児のお友達。

おいしいみかん み～つけた

もういいかな

ワタシハ ミカンセイジン！

う～んつめたい！

何ともいえない“初めての経験“

きっとこれは大きな大根だよ！
一緒にがんばってぬくよ！

輝いている僕を見て

ひょっこりひょうたんじ～ま♪

ねえねえ
すわってみると
あそこ
なんかいいかんじじゃない！

みんな仲良し！

楽しい事いっぱい！幼稚園だ～いすき

お～い！わたしたちはここだよ～！

お水遊びだーい好き！

つみきタワー！すごーく高くなったよ

泥んこ遊び楽しいな♪

落ち葉のシャワー

はやく大きくなぁれ

夢の中でもお友達と楽しく遊んでるヨ

ぼくたち、ワニだぞ！

国際交流で学んだ「マオリ族」の挨拶に、ちょっとドキドキ

静私幼だより
NO.188
2020.03.15

ナイスショット

よいしょ!おいしいお餅がついたよ!

「さっ しっかりつかまってね」

なわとびをみたてて“お祭りごっこ“

「や～れ やれ やれよっ」

お化けだぞ～

焼きとうもろこし屋さん

とんぼのめがねで見たら「赤く見える～!」

2年間の広報委員会活動を振り返って

■句読点や漢字など大変勉強になりました。ありがとうございました。
■活動を通じて文才の無さを改めて思い知りました。情報を沢山頂けたことが収穫です。
■街ぶらりでは、そば打ちの体験や香り良い石鹸作りなど楽しいことばかりでした。
■校正を始めいろいろな仕事内容でしたが、特に文章を書くことのむずかしさを痛感いたしました。
県内11人の先生方と情報交換で成長させていただきました。
■初めての経験はいろいろ刺激的でしたが、小さな文字との格闘にハズキルーペは必需品でした。
■広報委員会でしか経験できないことがたくさん詰まった2年間でした。楽しかったです。
■取材を通し沢山の方と出会い貴重な体験ができました。ありがとうございました。
■私達には仲間がたくさんいるんだなと心強くなる静私幼だよりです。ありがとうございました。
■委員会活動を通じて皆様からいろいろ学びや刺激をいただきありがとうございました。
■読みやすい文章、表現を模索し楽しく活動できました。ありがとうございました。
■この2年間、さまざまな経験をすることができました。ありがとうございました。

発行人／千葉 一道
編集人／杉山 京子
広報委員会

発行所／(一社)静岡県私立幼稚園振興協会
〒420-0853
静岡市葵区追手町9番26号
静岡県私学会館内
TEL.054(254)6820・FAX.(255)3694

http://www.shizushiyou.or.jp/
E mail: office@shizushiyou.or.jp

印刷／(株)三創 レイアウト・イラスト／村松麗子

このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。